

社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣 良次

2024. 11
No.375

挑戦

(稲盛和夫『考え方』より)

新しいことを成し遂げるには、

「何があってもこれをやり遂げるのだ」

という、闘争心が必要です。

どんな障害に遭遇しようとも、

それを乗り越えて努力を続けていく

というタイプの人でないかぎり、

チャレンジをしてはならないのです。

イナテックグループでは、「一社依存体質」

脱却のために営業2部を設立いたしました。

一社依存体質からの脱却は、簡単に出来る
こととは思っていません。この「社員の皆様へ
のメッセージ」では、2010年頃から自

動車業界の行方について私の考えを述べてい
ました。しかし当時は、既存事業(A/T
部品)が大増産していたため「一社依存体質」
改善の必要性について、社員の皆さんの理解
を得られませんでした。そのような状況では
「一社依存体質」改善に向けた、パワーなど
底なく、脱却にはほど遠い道のみでした。

ところが、コロナ禍前から中国のE
V攻勢が強くなり、A/Tの生産台数が
安定しなくなってきた時、徐々に皆さんの理
解が得られるようになってきました。そこか
ら皆さんの頑張りのおかげで、営業2部も少
しずつ売上を確保できる体制が出来てきま
した。

これも稲盛さんの言われる「何があつても
やり遂げる」闘争心があったからだと言感し
ています。そして何より、トップ自らが常に願
い続け、どんな問題にも立ち向かう決意が
必要だと再認識しました。大切なのは「出
来るまでやる」ということです。

決してあきらめない不屈の闘争心を持つ

(稲盛和夫『考え方』より)

「もう、駄目だというときに仕事の始ま
り」「断られたときに仕事の始まりだ。困
難な状況をどうやって打開するのかを考
えることこそが仕事なんだ」

そうして、どんなに難しく困難な状況に
襲われようとも、決してあきらめることな
く、粘り強く、お客様を訪問し続け、受注
活動に努めていきました。その努力を譬え
るなら、水滴が大きな岩をうがつようなも
のでした。つまり、たった一滴の水では岩
をくりぬくことはできませんが、それを果
てしなく続けることで、やがて水滴といえ
ども、岩をもうがつことができるのです。
そんな強い意志で挑戦し続ければ、血路
は必ず開きます。

大切なことは、可能性を信じ、解決の道
を探り続けるということです。私はどのよ
うな困難な局面でも、「今までの手法では

駄目だが、他に方法はないか。必ず血路を開く手立てがあるはずだ」と、懸命に打開策を考え続けました。

「これでもか、これでもか」と、誰にも負けない努力を重ねることこそ、困難に思えた局面も打開し、チャレンジも成就していきます。

イナテックの営業2部は、今まさにその火中にあります。まず、渡辺先生のTPM指導に基づいてステップ(仕事の進め方の標準化)を踏み、営業活動にあたることが重要です。

イナテックグループの営業部門をはじめ、皆さん、次の原理原則を必ず守って行動して下さい。

原理原則に基づいた判断

『人間としての原理原則』

(森田直行「課長の心得12ヶ条」より)

- ・人のものを盗まない
- ・嘘をつかない
- ・人を騙さない
- ・約束を守る
- ・弱い者いじめをしない

この原理原則を心に留め、営業活動や生産活動に取り組んでください。必ず新しいお客様が開拓できると信じております。もう少しです。皆で頑張りましょう。

菜根譚後集

一〇六

士君子、持身不可輕、輕則物能撓我、而無悠閒^{*}鎮定之趣。用意不可重、重則我爲物泥、而無瀟洒活潑之機。

士君子という者は、身の振舞いについては軽々しくしてはならない。軽々しくすると、外物に振りまわされて、ゆったりとして落ち着いた風格がなくなってしまう。しかし、心の使い方は、重々しくしてはならない。重々しくすると、自分が物にこだわりすぎて、さっぱりとした元気なはたらきがなくなってしまう。